

人知れず歌いつがれてきた、または1人で喜んで
いた数々の名曲のかえ歌。今まであまり表に出る
ことのなかったこれらの作品を再び大特集!

永久保存版 名曲かえ歌

パイパーズの前に、もうすでに「かえ歌大特集をやっている本があった!」——その本の名は「福富俊一追悼集」。福富氏は永らく早稲田大学交響楽団のトレーナーをつとめた、ワセオケの育ての親のような人だったが、83年に急逝、OBたちによって作られた立派な追悼集がこの本である。追悼文のまん中に突如、かえ歌のページが現われる。全部で14曲あるが、スペースの都合で残念ながら4曲のみを掲載させていただいた。

●ストラヴィンスキー《春の祭典》(元早稲田オケ・トレーナー故福富俊一追悼集より)

だるまさんがころんだよ

入り組んだ変拍子地獄に入る直前、低音楽器のTuttiで4分の11拍子がある。ここはマジメに数えないとイケニエにされそうな所なので、必然的に生まれたかえ歌といえるだろう。

●ドヴォルザーク《交響曲8番》4楽章 (同追悼集より)

ドンドン ドンガラガッタ こがねむし ドンドン ドンガラガッタかねぐら たてた くらたてた

ドヴォルザークはかえ歌に最適。民謡の宝庫、農民の知恵。

●ドヴォルザーク《交響曲8番》1楽章 (同追悼集より)

すっすめ すっすめ ひょっこりひょうたん じま

風呂出でしやあねえ 安全ベルト!! 安全ベルト!!

●ベートーヴェン《交響曲8番》1楽章 (同追悼集より)

あーくたびれた

これはかなり全国的に知れわたっているようだ。「もうやりたくない」というものもある。

●ベートーヴェン《第九》4楽章 (バンドビートル編集部・今里香織)

ポロはきてても こころはにしき どんな はなより

水前寺清子《一本どっこの唄》。この後は「どんな花よりきれいだぜ/若い時や二度とない/ドンとやれ男なら/人のやれないことをやれ」と続く。

●ベートーヴェン《第九》2楽章

クラリネット チョンボ チョンボ クラリネット チョンボ チョンボ

これも有名。福富さんの追悼集にもあったし、バンビの今里さんも「後輩から教わった」と送ってくれた。この後は「クラリネットへただへただ……」

●水戸黄門のテーマあるいは……

じんせい ひっし

なんですかこれは。

●ベートーヴェン《第九》1楽章

かっとばせ かっとばせ かっとばせ かっとばせ

1楽章の中間部、ちょっとわかりにくいかもしれないが、意味なしフレーズ、他意はない。

かえ歌大特集 PART II



●ムソルグスキー《展覧会の絵》

てんらん かいのーえ のーえ
さあ、だんだんアホらしくなってきた。「のーえ」というのが和風でよろしい。

●ベートーヴェン《交響曲7番》4楽章 (明治大学交響楽団・高野克己)

こーんな たかいおと てるわきや ないないないない
素朴で実感がこもっている。この他に新世界のホルン、4楽章終盤の難関「こーんなおとーでないよー」というものもある。

●リムスキー・コルサコフ《シェエラザード》(神戸クラリネット・クインテット・小松平八郎)

あめが しとしと にち ようび

●ベートーヴェン《レオノーレ序曲3番》

じーも ばばーも とーも かかーも しばかり しばかり しばかり しばかり

●ドヴォルザーク《新世界》4楽章 (千葉県船橋市・関 英治-元大学オケ)

まいどおなじみ ビオラのきざみだ まいどおなじみ ビオラのきざみだ(以下延々17小節同じ)
ビオラの宿命。「歩く人間手まわしオルガン」

クラリネット チョンボ チョンボ

またクラリネットが標的になっている。「クラリネットソロがまちがえるのをチェロがおもしろがっている」という関さんの解説がついているが、まちがえたらチェロと一緒にソロを弾いてあげる位の温もりが欲しい。

●ホルスト《惑星》より天王星 (匿名希望・関西某大学オケ団員)

たんたん たぬきの きんの たまは かーぜも ないのーに ぶーらぶら
天王星は6曲目の速い曲。この後、静かになってから突然金管が「たーんたーん」と吠えるところなど、すごい迫力だ。

●マーラー《交響曲3番》1楽章

どこの だれが はしらないけれど

●そういえばこんな歌があった、あの歌は本当はこう歌うのだ等々、傑作を募集しています。どんなにアホらしくても可。巻末の読者カードか封書でパイパーズまでお送り下さい。曲の箇所がわかりにくい場合は簡単な楽譜を添えて下さい。作曲者名、どの曲のどこらへんかを明記の上お願いします。

かえ歌大募集!!